

山口県大島(東和町)の老人の家族について
比治山女子短大 下東艶子

目的 日本一長寿の町と称される東和町は過疎化のほげしい町であるが、そこに在住する老人の家族生活の実態を調査して、高齢化する社会の対策を探究したいと思った。

方法 東和町は住民の33.7%が高齢者で、65才以上の老人は2480人あり、男性は39.2%、女性は60.8%で85才以上90才代が196人(老人の8.4%)あるという高齢化社会である。

昨年5月、東和町福祉課は35人の民生委員によって、老人全員の調査を行なった。その中、家族数が1人が70.8人(30.3%)あり、2人が44.7%、3人以上が27%である。夫婦だけの二人暮らしが55%である。家族が町外に出ている家庭は81%もある。長男が島外に出ている家庭は40%ある。その他の子が出ている家庭は35%である。子供と一緒に生活したいと答えた老人は55%(1294人)あり、その反対は45%あった。病気になった時に看病望む人は1番が家族(43%)次が配偶者(39%)次が嫁いだ娘(8%)となっている。また食事の仕度は自分である人が56%あり、配偶者の29%と家族が12%である。健康な老人が多く、身のまわりや日常用務を自分である人は92%ある。3%は配偶者にしてもらっている。何でも話し合える友がある人は75%あり、反対の25%の中では30%は友がほしいと言っているが、70%はいらないと答えている。また、現在の「なやみごと」では1番が「健康」上の問題で57%、2番が後継者の問題で10%あり、経済上のことは9%であった。

結果、生活に不満はわずか3.8%であって、過疎化により、自律心と責任感が、老人の心身の健康を支えているようである。健康維持は仕事をすることだと答えている老人が多い。サービス供給型の福祉より、むしろ老人の主体的活動により本人も社会も活性化している。